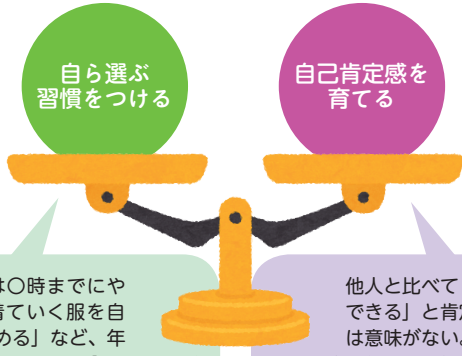


これだけは知っておきたい！ 教育NEWS

イマ
どき

今、何を学ぶか

思考力・判断力・主体性を身につけるには？



「宿題は〇時までにする」「着ていく服を自分で決める」など、年齢が低いうちから「自分で選ぶ」「自分で決める」習慣を。自分で決めたことを自分で守ることができると「達成感」に。

他人と比べて「自分はできる」と肯定するのは意味がない。むしろ、自分は唯一無二の個性的で貴重な存在であり、自分で決めた目標を自分で達成できるという「自己肯定感」を持つことが大切。

NEA(教育アライアンスネットワーク)では、この秋、小中高生、保護者、教育関係者を対象とした教育セミナーを2回実施しました。全体を貫くテーマは「これからの社会で活躍する人材に求められるものは何か」ということ。4名の方のお話をダイジェストでご紹介します。



田中優子さん

法政大学総長。1952年神奈川県生まれ。法政大学文学部卒業、大学院人文科学研究科修士課程修了、博士課程単位取得満期退学を経て、2003年社会学部教授、2012年社会学部長。2014年から総長。現在に至る。

高校生に求める能力と コロナ後の大学の学び

「学問を究めるだけではない 大学で学ぶことの価値」

みなさんは、大学で何をしたいと思っていますか。大学はみなさんの想像以上に、さまざまな可能性がある場所です。まず、大学とはどういう場所なのかを考えてみましょう。

一、大学とは「自由の広場」である

考える自由、何かに出会う自由、そして出会ったものに集中して取り組む自由がある場所。先生や友人、さまざまな人と出会う場所。多様性(ダイバーシティ)のある場所。

二、大学とは「驚きの場所」である

学問でも人でも想定外の出会いはある場所。「世界でこんなことがあるのか」「こういう人が世の中にい

るのか」という驚きのある場所。
三、大学とは「考える時空」である
本を読み、先生や友人とディスカッションし、発表(プレゼンテーション)などを行う過程で、とことん考え抜くことができる場所。

大学では、試験もありますし、単位も取得しなければなりません。しかしそれだけではない。というところに、大学の価値があるのです。

法政大学では、社会に対する約束の言葉として「自由を生き抜く実践知」を提唱しています。世界のだけれども、自分で決め、自分の言葉で語れるように。机上だけでなく、現場で体験したさまざまなことを「自由を生き抜くための知識として活かせるように。そういう教育を大切にしています。」

「今やるべきことに集中すれば 必ず次の道が拓ける」

大学あるいは大学院を修了すると、みなさんは社会に出て行くこととなります。今、企業が学生に求める能力は、次のようなものです。

- 創造性／柔軟性／論理的思考力／寛容性／適応力／語学力／社交性／観察力／ネットワーク活用力／専門性
- 課題発見・解決能力／リーダーシップ／先進技術活用力 など

これらの能力は、大学が学生に育てようとしている能力と共通しています。

クリエイティブ

正解のない時代に、自分で考える勇気とAに代替されない創造力を持ち、かつ、それを生かす人。目標を自ら設定し、自分で計

画を立て、自分で管理できる人。自分で稼ぐ力を持つとする意欲のある人。

イメージーション

今、存在しない仕事にまで想像力が働く人。他の人の立場を思いやることができる人。

コミュニケーション

自分の意見を持ち、相手の意見も聞いて議論ができる人。対話ができる人。

では、こうした能力はどうすれば身につくのでしょうか。尾木ママこと尾木直樹さんと話し合ってみてわかったのは、次の2つです。

- ① 自ら選ぶ習慣をつける
- ② 自己肯定感を育てる

親が口出しせず、どんな小さなことでも「自分で選ぶ」「自分で決める」ということ。小さいうちから、自分で目標を立て、管理し、達成することができたという経験を持っていることが「自信」になり、「自己肯定感」につながっていくわけです。

コロナで、大学の授業は一変しました。評価のあり方も「授業十学習時間」から「達成度」へ変わりつつあります。①②は、「思考力・判断力・表現力」「主体性」を身につけるうえで、また、「達成度」重視の学びにおいて欠かせない能力ではないでしょうか。

「こんなことをして大丈夫だろうか」「将来、どうなるんだろう」など不安がよぎると思います。しかし、大事なことは「集中すること」。今やるべきことに集中して全力を尽くしていると、必ず次の道が拓けます。

自分の道を切り拓いていくために、集中力を高めましょう。そして、「SDGs」を手がかりに、世界に目を向けましょう。それが、みなさんの将来につながっていくと思います。

「知識」ではなく「知るためのスキル」でデザインする

自分の学びを自由にデザインする

イタリヤ・ルネサンス期の彫刻家、ミケランジェロは「Saw the angel in the marble and carved until I set him free.」という言葉を残しました。「大理石の中にいた天使を、自由にするまで彫った」とつまり「自由」で「自在」な発想を語っています。これはICUの「リベラルアーツ」に通じるものです。

ICUの「リベラルアーツ」では、アーツとサイエンスの化学反応を重視し、理系・文系を一度リセット。1年次から人文・社会・自然科学を幅広く学び(横串)、自分の関心や好奇心を大事にしながら、専門性を「自由自在」に設計、展開、探求(縦串)していきます。正解のない問いに向き合う力を



池ノ内健司さん
国際基督教大学(ICU)
広報戦略室 教養学部長特別補佐

あります。Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Art(芸術) Mathematics(数学)をバランスよく学ぶことで「リベラルアーツ」と共通するものです。社会学の中で数学的な処理を行ったり、心理学と音楽を結びつけてメソッドを生み出したり。これからの時代、異なる分野のものを自在に結びつけ、正解のない問いに向き合う「統合力」は、非常に重要になると思います。コロナ後は教育の概念がすっかり変わると思います。「知識」よりも、次のような「リテラシー(知るためのスキル)」が重視されるでしょう。

Balanced Knowledge

専門領域だけでなく、文系から理系まで横断的でバランスのとれた知識を備えていること

多様性は「考える力」を育てる

世界における日本の立ち位置は?

なぜ「多様性」が重要かを考える前に、はたして今の日本が成長社会、高学歴社会といえるか考えてみましょう。

- 日本人はマスメディアの情報を鵜呑みにする割合が高い(世界価値観調査)。
- 日本のメディアに対する信頼度は低く、66位(世界報道自由度ランキング)。
- GDPは30年間成長も衰退もない。実質賃金はこの20年で右肩下がり。
- 修士号・博士号取得者が少ない。
- 世界時価総額ランキングのトップ30に、今日本企業の姿はない。
- GAFAをはじめとする「多様性」「高学歴」「常に自己成長」している世界企業が世界時価総額ランキング上位に。



伊藤健志さん
立命館アジア太平洋大学(APU)
東京オフィス所長

豊かで進んだ日本はもはや幻想かもしれない。だから「多様性」が重要なのです。世界共通の「考える力」を身につけて

APUの出口治明学長は「教養II知識X考える力」が必要だと言います。

たとえば、日本人学生が留学生に混じって先進国について議論する場合、先進国のイメージは全員違います。その違いを共有してから議論がスタートする。「知識X考える力」が問われる「多様性」の中のコミュニケーションは、想像以上にハードです。英語ができればOKというわけにはいきません。

世界の大学で英語力を見る資格試験はIELTSとTOEFL。英語ができるかどうかではなく、英語で「読解力」や「批判的思考力」があるかが問われる。

Communication Skills

多言語で対話ができること。日常会話レベルではなく、論文が書ける、エッセイが書ける、議論できる能力

Critical Thinking & Judgement

批判的思考力、判断力を持つこと
創造的に考え、創造的に実行する

Creativity

これらは今後の世界で共通した価値観です。ぜひ、21世紀を生きる子どもたちに身につけてほしいと思います。

保護者へのアドバイス

- ① 母語である日本語をしっかりと学ぶ
- ② 主観的に考えることに磨きをかけて
- ③ 「感性」「創造性」を養う環境を
- ④ Why? How? で問いかけを
- ⑤ 自分の考えを言語化し、論理的に他者に伝えられるように
- ⑥ 多言語を身につけることを意識して

「語彙」と「文法」をしっかりと学習すべし。

そうすればオールイングリッシュのプールに落とされても、なんとかなる。

自分の主張を立証するには、数理にもとづいたデータやエビデンスが必須。

世界の人々との議論では、地理や歴史の知識は当たり前。アートのコミュニケーション手段のひとつ。

APUのウズベキスタンの留学生が「多様な人との議論では、自分の置かれた立場や自分が受けてきた教育を相対化して見ることが必要だ」と言っていました。まさにこれが「多様性」が育てる「考える力」だと思います。

保護者へのアドバイス

- ① 小学生、中学生、高校生、そのときしかなできないことを応援して
- ② 子どもの「なぜ」から逃げないこと
- ③ 親も学び、子どもと一緒に「探究」を
- ④ 「一人・本・旅！」(出口語録)

新時代に生き抜く力



松尾廣茂さん
広尾学園小石川中学校・高等学校校長

これからの時代は、「お手本のない」時代。子どもたちは、私たちが想像もできないほど流動化したグローバル社会のなかで、初めて出会う問題に数多く直面し、自らその問題に果敢に取り組み、チャレンジし、解決していかなければなりません。

そのとき大切なことは2つあると思います。

- ① 問題解決能力……言われたことをそのままやるのではなく、自ら問題点を見出し、解決策を考え、提案し、実行する能力。自分で考え、行動できるようにする「自律の精神」を身につけて。
- ② コミュニケーション能力……異なった国の異なった文化や宗教を持った人たちと、その差異を乗り越えて、ともに手を携えられる能力。友達の成功を自分のことのように喜べる「共感力」、ともに伸びていく「共生の精神」を身につけて。

保護者は、お子さんが何かにチャレンジして失敗しても、安心して心を休められる場所になってほしいと思います。そうして、難題を前にしても折れない心、再び立ち上がる力、タフな心を育て、「自己肯定感」が高まるように、予測不能な社会を自分らしく生き抜いていけるように、子どもたちを応援していきましょう。

未来は自分次第で明るくなるものです。未来の社会で活躍できるように、子どもたちには充実した毎日を過ごしてほしいと思います。

【編集後記】

NEA(教育アライアンスネットワーク)が主催した「教育セミナー」をダイジェストで紹介しました。教育の現場にいる4名の先生方の言葉には、子育てや教育に大切なエッセンスが詰まっています。先の見えない時代、わが子にどんな力をつけたいのか迷ったとき、少しでもヒントにしたいだけあれば幸いです。NEAでは、今後も、子育てや教育に役立つ学びの機会を提供してまいります。